

## 第3回市民ワークショップでの視点ごとのあるべき姿

(あるべき姿の括弧内のアルファベットは第3回市民ワークショップ内でのチーム名)

### Connection

| 視点       | 人のつながり  | 市民間の交流と活動や地域力に関する視点 |            |       |       |        |
|----------|---|---------------------|------------|-------|-------|--------|
| Key Word | ◆世代間交流  | ◆居場所                | ◆新しいコミュニティ | ◆自治会  | ◆ふれあい | ◆顔の見える |
|          | ◆助ける・助けられるの関係   |                     | ◆きっかけづくり   | ◆市民参画 | ◆協働   | ◆温故知新  |
|          | ◆多様性  | ◆ほどよい距離感            | ◆他市との交流    |       |       |        |
| あるべき姿    | (A) 市民と市職員が協力し開かれて地域のために世代をこえたコミュニティ作りをする<br>(B) 市民と行政が協働し、温故知新の場ができる街<br>(C) 老若男女を問わず（世代横断）、新しいコミュニティと古いコミュニティの融合→イノベーション<br>(C) 新たな場（まちの縁側）づくり 小・中・高・大学生のさらなる交流<br>(D) いろんな世代がどんどん入り、集い、ふれあうことで多様な価値観をもち、活発な流動・発展（＝新陳代謝のよい）を行うコミュニティをつくる（なる）<br>(E) 既存のコミュニティを含めて、基盤となるコミュニティを強化／多様な人たちの顔が見える関係をきづき、楽しめるコミュニティ作りを応援<br>(F) 多種多様な立場の人々が顔の見える場を通して、気軽に話し合える関係性が生まれる街<br>(G) 多様な価値観と世代間の交流がはかれる仕組みのあるまち<br>(H) 今あるものも、これからできるものも、多様性を認め合う ほどよい距離感でつながる |                     |            |       |       |        |

| 視点       | 暮らしやすさ  | 安全・安心や住環境, 生活利便性に関する視点  |   |   |  |  |
|----------|---|---|---|---|--|--|
| Key Word | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆統一感</li> <li>◆健康</li> <li>◆子育て</li> <li>◆地域格差がない</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆安全安心</li> <li>◆価値観</li> <li>◆双方向コミュニケーション</li> <li>◆情報発信の多様性</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆災害への対応</li> <li>◆多様性</li> <li>◆滞在ニーズを届ける</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆コンパクト</li> <li>◆多様なスタイル</li> <li>◆住みたい・住み続けたい</li> <li>◆公共施設</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆利便性</li> <li>◆アクセシビリティ</li> <li>◆行政</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆快適</li> <li>◆移動のしやすさ</li> <li>◆官民一体</li> <li>◆リノベーション</li> </ul> |
| あるべき姿    | <p>(A) 芦屋の豊かな自然を維持し、市民が安心安全に暮らせ、子育てができるまち</p> <p>(B) 芦屋の良さを活かした誰にとっても安心・安全でコンパクトな（まとまっている・アクセシビリティが高いという意味）暮らしやすい街</p> <p>(C) 高齢者・主婦・障がい者など誰もが多様なスタイルで活躍できる多様性と包摂性</p> <p>(C) きめこまかな情報共有強化（防災/コミュニティ/まちづくり/日常生活）※寝たきりの人にもきちんと伝える必要</p> <p>(D) 人と人とのつながりを活かし、子どもから高齢者・全ての人にやさしく、住み続けたい街をデザインする。</p> <p>(E) みんなに便利なまち 安心安全に暮らせるまち（情報発信・共有）情報力のあるまち 充実した子育てができるまち</p> <p>(F) 自然との共生に折り合いをつけながら、安心安全な環境のもと子ども～高齢者、障がいのある方、それぞれのスタイルで活躍できる街</p> <p>(G) 有事も視野に入れた地域格差のない公共施設の配備とそのために官民一体でとりくめるまち</p> <p>(H) みんなの声がとどいて、活かされるまち</p> |   |   |   |  |  |

| 視点       | 資源  | 芦屋のハード・ソフト両面の資産・資源を活かすための視点  |  |  |  |  |
|----------|---|--|--|--|--|--|
| Key Word | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆今あるものを活かす（リノベーション）</li> <li>◆芦屋らしさ</li> <li>◆教育</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆新しいものと古いものの融合</li> <li>◆ニュー芦屋</li> <li>◆子ども</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆未来</li> <li>◆人材の発掘・育成</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆自然</li> <li>◆人の充実</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆循環</li> <li>◆伝統文化</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆芦屋スタイル</li> <li>◆産業</li> </ul> |
| あるべき姿    | <p>(A) 古いもの、新しいものがバランス 両方活かす（既にあるものを活用）</p> <p>(B) 今ある良さを皆が共有し、育て循環させるまち</p> <p>(C) 芦屋オリジナルをみんなで共有し、住んでいる人が大切にしていける（どう活かすか？）</p> <p>(D) 古くからある文化・芦屋のイメージを残しつつ、新しいモノを受け入れ”芦屋をほこりに思える”芦屋市をつくる</p> <p>(E) 古き良きものを活かし自然と共生できるハード面の整備</p> <p>(F) 芦屋の自然や文化資源を活かして未来の活動人口である子どもたちが育つ街</p> <p>(G) 既存の自然や伝統・文化を活かした産業や教育が充実したまち</p> <p>(H) 文化、産業、イメージなどの既存資源を大事に時代とニーズに合ったものに変えていく</p> |  |  |  |  |  |

| 視点       | 未 来  | 少子高齢化・人口減少など社会情勢の変化への対応や持続可能なまちづくりについて   |  |  |  |  |
|----------|--|--|--|--|--|--|
| Key Word | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆共生</li> <li>◆持続可能</li> <li>◆夢と希望</li> <li>◆デザイン</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆協働</li> <li>◆子ども</li> <li>◆活気</li> <li>◆芦屋らしさ</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ダイバーシティ</li> <li>◆教育の充実</li> <li>◆創造</li> <li>◆芦屋スタイル</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆新しいものと古いもののバランス</li> <li>◆人口減少対策</li> <li>◆産業</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆産業界の取り組み</li> <li>◆商業</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆足りないものを補う</li> <li>◆イノベーション</li> <li>◆ランドデザイン</li> </ul> |
| あるべき姿    | <p>(A) 子どもが活躍できる芦屋が活性化するような教育方法</p> <p>(B) 多様な価値観を尊重し、全ての立場の人が共生・協働・働き方のイノベーションが起こるまち</p> <p>(C) 総合力 生きていく力をつけるキャリア教育</p> <p>(C) 透明な意思決定プロセス 行政/議員/一般市民/民間企業/地域組織等オール芦屋で</p> <p>(D) 市民と行政がつながり、芦屋をよく知ることで（情報発信・キャッチ仕組）活気あふれ、希望のもてるまちを創造する</p> <p>(E) 芦屋の教育力、財政力、魅力（芦屋らしさ）を充実させて、人が住みたくなるまち→持続可能なまち</p> <p>(F) 芦屋のカラーが活きる街 カラーとは…色/特色</p> <p>(G) “芦屋らしさ”を共有でき、創出することができるとともに地域全体で子どもを育てることのできるまち</p> <p>(H) 世代問わず、誰でも活躍できるまちを次世代につなげる</p> |  |  |  |  |  |